

令和6年度教育委員との意見交換会（意見概要）

1 目的

教育委員会（教育長、教育委員）が、教育に関するテーマに沿った参加者と意見交換することにより教育的ニーズを聴取する機会とし、教育行政の進展を図る。

2 日時・場所

令和6年12月18日（水）14：50～16：30

市役所本庁舎10階 教育委員会室

3 参加者

・教育相談に関わる職員

ライトポートチーフ指導員、ライトポート指導員、ライトポートカウンセラー、
家庭訪問カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭 各1人

・教育長・教育委員 5人

4 意見交換テーマ

児童生徒の支援において求められていること

- （1）支援を必要とする児童生徒およびその保護者の状況
- （2）支援の充実に向けて必要なこと

5 意見概要

「支援を必要とする児童生徒やその保護者の状況と、自身の職種に何を求められていると思うか」について

○ライトポートチーフ指導員

学校に登校できない状況下の子どもたちは、個別の事情を抱えている。個々の困り感を聞き取り、日々の支援をしている。それぞれの事情について指導員間で情報共有し、対応にずれが生じないように努めている。

チーフ指導員として求められていることは、子どもと保護者に寄り添うことを第一に置き、保護者、学校との連携のほか関係機関との連絡調整、そして指導員が働く環境の整備・調整にも配慮が必要と感じる。

○ライトポート指導員

保護者は、当たり前だと思っていた通学が滞り、子どもに何が起きたのか、何に悩んでいるのか心配に思う気持ち、それと同時に勉強の遅れや受験への不安なども抱えている。生活のリズムが変わって困ったり、焦る気持ちも大きい。子どもが学校の代わりに安心して過ごせる居場所を探している。

指導員として求められていることは、まずはその子を知ろうとすること。子どもが「ここなら居られる」と感じ、ライトポートや周りの子に慣れてもらえるように適度な距離で声かけをしながら、徐々に巻き込んでいくこと。大人が出しゃばらず、子ども同士の関わりを増やし、挑戦の機会を増やし、自主性を育むサポートをすること、次のステップで頑張れるように自信を持たせてあげることが自分の仕事だと思っている。

○ライトポートカウンセラー

ライトポート通級児童生徒からの相談は、ライトポートでの活動中のトラブルや不登校のきっかけについて、通級中の心境の変化にもなった相談、今後の見通しや目標についての相談などを求められる傾向がある。保護者からの相談は、子育てについて、思春期や発達障害への関わり方、合理的配慮とその求め方などが多い印象。

ライトポートカウンセラーは、相談を肯定的に聴き、相談者の困り感を整理することに寄り添い、教員や指導員とは異なる心理の専門家としての客観的視点から、状況の解決や改善につながる心理的支援を行うことや、コミュニケーションスキルを高める心理教育などが求められていると考えている。

○家庭訪問カウンセラー

保護者は登校できていないこと、人とのコミュニケーションが少なくなること、勉強が遅れることや将来への不安等に悩まれているように感じる。児童生徒は、登校できていないことや勉強が遅れること、それを含めた漠然とした不安感などがあると感じる。

家庭訪問カウンセラーに求められることとしては、家族以外の人とのコミュニケーションや不安感の軽減だと思う。外との交流が少なくなっている児童生徒にとって、本人の一番安心できる場である家で話を聴くことは負担も少なく、一番話しやすいのではないかと考える。また、相談先に「行く」ことよりもカウンセラーが「来る」ことの方が心理的な負担が少ない方もいるようで、そのような方々にとっては、家庭訪問カウンセラーが行くことで相談に対するハードルを低くできる要素の一つだと思う。その結果、本人の考えを整理できたり、コミュニケーションをとる自信がついたりして、様々な不安感の軽減などにつながるのではないかと考える。

○スクールソーシャルワーカー

千葉市には12人のスクールソーシャルワーカー（以下SSW）がおり、担当する学校から相談を受けている。相談内容は様々で、例えば、不登校・ひきこもり、精神的な不調などがある。SSWの派遣依頼が来たら、まず学校からの相談・情報提供を受け、児童生徒や保護者との面談、家庭訪問を通じて、悩みの聴き取りをしている。当事者には、困り感がある時とない時がある。SSWは課題に応じ、校内のチーム支援体制づくりを提案したり、外部の相談支援機関を紹介したりする。学校だけでは解決が難しい問題に対し、外部の専門機関・支援者を招いてケース検討会議のコーディネートもしている。他機関・多職種が役割分担し、チームで支援することにより、課題の解決を目指している。

SSW は、児童生徒が安心・安全に、自分らしい生活を送り、自己実現をするため、子どもの権利を守り、意見表明をする場を作ることが大切だと考えている。

○養護教諭

中学生の悩みは様々で、自身の体や病気に関すること、友人関係、教員との関係、保護者との関係などについて保健室に来室し、悩みを話す。最初から相談という形ではなく、何かしらの身体症状を訴えて来室し、話を聞いて関係性を構築していくうちに、悩み相談につながることが多い。

保護者からの相談内容は、疾病、アレルギーに関すること、それに伴う校内での配慮事項についての他、不登校、あるいは登校渋りなどがある場合に相談を受けることが多い。不登校や不登校気味の生徒の状況は様々で、体調不良によるもの、クラス内の友人関係、部活動、学習不振、精神的なことなど、多岐にわたる。

養護教諭の役目は、まずは悩みに寄り添い、相談できる場であること、心落ち着ける場であることを生徒に伝えることだと思う。保護者に対しても、学校に相談できる窓口があることを知っていただくことが大切だと考えている。そして相談内容によっては、1人で対応するのではなく、適切な支援をするために、情報を校内で共有し、スクールカウンセラーにも積極的につないでいる。そのほかにも他の職員と協力してチーム学校として支援方法を考えたり、関係機関につなげるコーディネーター的役割を担っていると考える。

「支援をより充実させるために必要だと思うこと・もの」について

○ライトポートチーフ指導員

小中学校ともに通級を希望する児童生徒が毎年増加すると同時に、個々の特性に合わせた支援が必要なケースの割合も増えている。指導員の人数やライトポートの場所が増えるとうれしい。

ライトポート中央では教員免許の取得者及び大学院の心理課程の卒業者が指導員となっており、それぞれの専門性が支援に生かしている。各指導員の専門性や個別の資質が生かせるような職場環境づくりも大切である。

○ライトポート指導員

学校、ライトポート、保護者との共通理解。ライトポート入級前には、保護者の意見、相談内容、先生からの情報、子どもが誰と関わってきたのかなどの情報共有。正式入級になった後は学習方針を含めた早めの担任面談、入級後の保護者の相談もあるとよい。

ライトポートを希望する児童が増えている状況なので、そうした子どもたちに対する支援の強化も大切だが、不登校児童生徒を増やさないことも大切。

○ライトポートカウンセラー

ライトポート通級児童生徒の増加に伴い、“丁寧にかかわる”という理想の実現が難しい状況であり、指導員などのスタッフの増員は必要だと感じている。しかし、ただ増員すれば良いわけではなく、「専門的な視点からの観察眼や関わり方が出来る人材」や、「“指示的ではなく支持的に” 児童生徒の好奇心や向上心を刺激できる人材」が望ましい。

○家庭訪問カウンセラー

求められる人材は、専門性がある人。必要だと思うことは研修などの時間。

現在、不登校のみが問題ではなく、様々な要因が絡み合っていることが多いと感じている。そのような方々を支援するためには専門的な知識が必要だと思うので、研修の時間を十分に取れるよう勤務時間の調整が必要だと感じる。

○スクールソーシャルワーカー

スクールソーシャルワーカー（以下 SSW）のさらなる啓発。学校内外の様々な場において、SSW の活動に関する話をする機会を作る。

要保護児童対策地域協議会ほか、行政や民間の支援機関、地域人材などが集まる会議に参加し、情報共有・意見交換の機会を作る。 など

○養護教諭

いつでも安心して行ける場所があることが大切だと思う。保健室登校も対応の一つだと思うが、けが人や病人など日々多くの児童生徒が来室するため、お互いのプライバシーが守られなかったり、感染症のリスクも生じてしまう。また、養護教諭が不在の場合の居場所の確保も必要になる。そのためには、校内に保健室以外の居場所を設置することは必要だと考える。

教育長・教育委員からの質問やメッセージ

（質問）

皆さんの現在の業務においては、対面による対応を大事にしていると思うが、民間事業者が実施するものを含め近年オンラインによる支援も増えている。オンラインとの使い分けをどのように考えているか。

（主な回答）

・ライトポートに来る前に、学校ではオンラインで授業等に参加していたという子の話を聞くことがある。先生は目の前の子にもオンライン参加の子にも気を遣っていて取り組んでいてすごいと思う。

オンラインだったら安心できるという子もいると思うが、オンラインは顔が見えないから反応がわからない。対面には表情を見ながら接する大切さがあると思う。

・面接の際は対面を大事にしたいと思っている。話の内容だけでなく動作や目の動きなどを見たいが、画面越しだとよく見えないこともある。

一方で、コミュニケーションに自信のない子にとっては、オンラインだったら参加できるという場合もある。オンラインを万能なものみなして何でもオンラインでやるというのは違うと思うが、ツールの一つとして必要に応じて活用するのは良いと思う。

(質問)

学校の補正力を高めるために、学校や先生は何を変えればよいと思うか。

(主な回答)

子どもが不登校や学校に行きづらい状況になった時、まず担任の先生が頑張りすぎてしまう傾向があるように感じている。先生と子どもにも相性がある。担任の先生だけでなく学校全体で見てあげて、その子と相性の合う先生をキーパーソンとして関係を築く方法もある。

先生と良好な関係を築けている子は、先生から呼ばれるなど何かあった時は「学校に行ってみようかな」となるが、長期間先生と話していないような状況の子は学校に足が向かなくなってしまう。

(質問)

市の支援機関がたくさんあるので困った時にどこに行けばいいか迷うと思う。その子にとって必要な窓口につなぐことが必要だが、その役割を担うのはどんな人が良いと思うか。

(主な回答)

今その子が一番安心して本音を話せる人は誰なのかをまず確認したいと思っている。例えば保護者なのか、先生なのか等。子どものニーズを把握し、まずは学校内で何ができるか話し合い、そのうえで外部機関への接続が必要となれば、スクールソーシャルワーカーが情報提供や同行支援などの対応をする。

(教育長メッセージ)

全ての大人が子どもたちのことを真剣に考えていると言いたい。

立場によってそれぞれの思いがあるので、やり方が正しいのかどうか、共通理解がなくぎくしゃくすることもあると思う。つながりを持って子どもたちを皆で支援するためには、共通理解が必要。

現場とともに連携しながら様々な取組みを進めていきたいと思っているので、これからもよろしく願います。